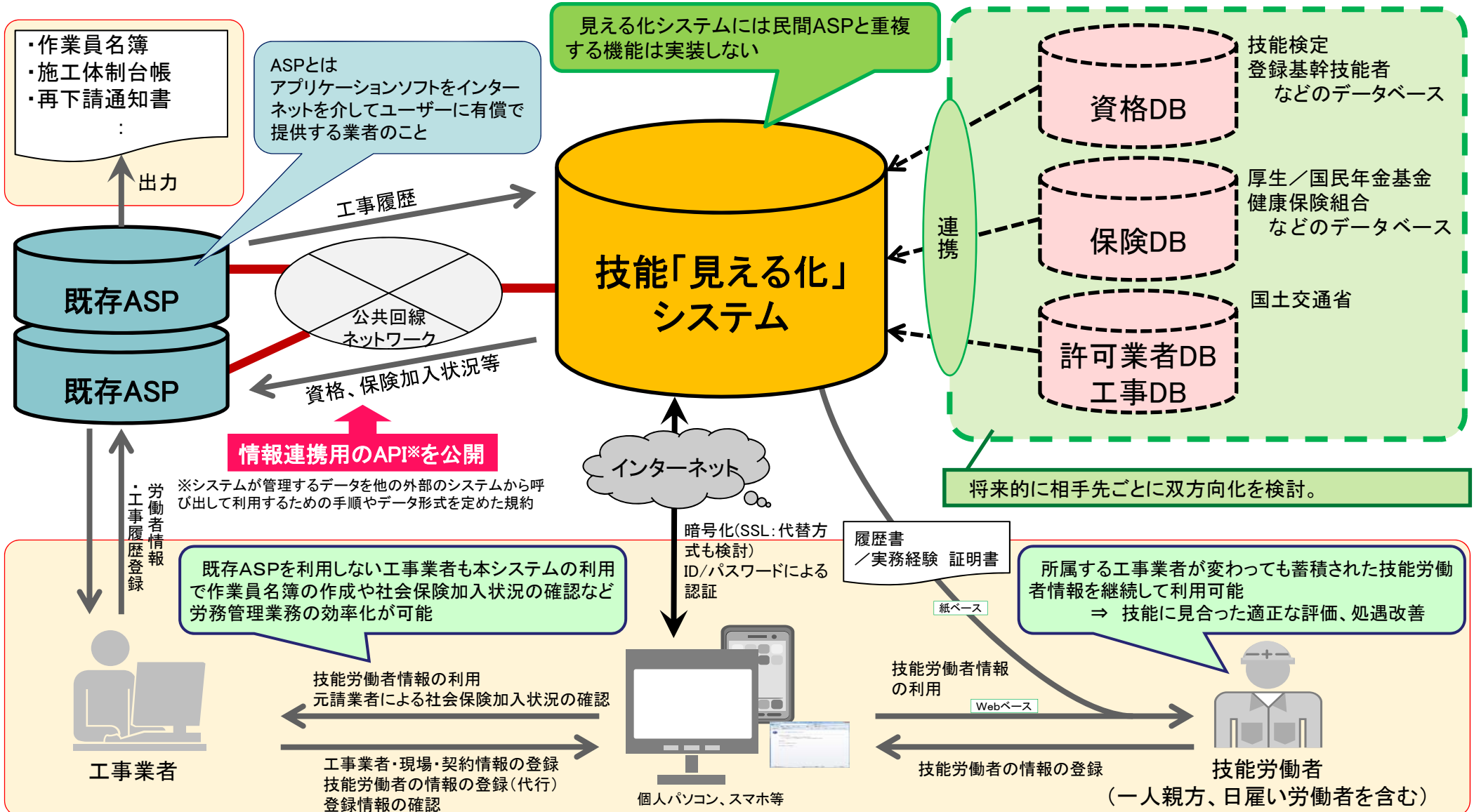


(1) 技能の「見える化」システムイメージ

技能労働者情報(本人情報+工事履歴、資格、研修履歴、社会保険加入状況の4情報)を一元的に管理し、情報を提供するためのポータルサイトとして整備

技能労働者情報の業界横断的な利用を可能とする
保有資格・保険加入状況等のデータ連携による業務の効率化

開発範囲の絞り込みによる差別化
個人、企業に対する様々な登録手段の提供



(2)技能の「見える化」システム表示イメージ

蓄積する技能の四情報は将来的に他のDBとの連携が可能となれば確実に真正性が確保できるが、それまでの間、情報確認者の確認状況を表示することで、利用者の側で情報の真正性を判断する仕組みとする。

例) 蓄積した情報のシステム表示方法

○資格情報

資格名称	所属会社	資格管理団体
〇〇〇〇	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

資格名称を入力

資格証等のコピーをそれぞれに送付し、内容確認後にチェックをしてもらうことで、情報の真正性を確保
システムに蓄積された情報の提供

○工事履歴

工事(業務)名称	工事内容	就労期間	所属会社	元請会社
〇〇道路建設工事		H23.4.5~H23.8.10	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
〇〇建築工事		H24.10.1~H25.3.13	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

収集情報については今後、運用体制の検討等において、技能情報の裏付けとなる書類等が確認できなければシステムに情報を登録しない等の取り決めがなされれば不要な仕組みとなる可能性もあるが、現段階では上記の例のように情報の確認者を画面上で表示するような工夫をする。